

Windows 10 で変更 & 追加され機能の概要

パソ救・勉強会 《Part1》 2015(H27).10.25(日)

《Part2》 2015(H27).11.22(日)

2015(H27).9.6 T.Ogawa

【重要】この資料は10月25日と11月22日の2回の勉強会で使用します。

Windows 8でMS社は重要資産である「ユーザが慣れ親しんでいるユーザインタフェースを捨てる」という大失敗をした。起死回生を図るべくMS社は、Windows 7～8.1からWindows 10（以下Win. 10）へのアップグレードを1年間に限り無償で提供する奇策を採った。

これはMS社にとって「ソフトを売る」から「ソフトサービスを売る」にビジネスモデルを大転換させた意味をもつものと言われている。この無償アップグレードの予約用として対象PCに半強制的にインストールさせたGet Windows10アプリ（GWX）では予約したPCから大量のデータを収集している。MS社はこれで得たビッグデータをどのように活かすのか興味しんしんであり、恐ろしくもある。

Win. 10 と言えば、「スタートメニュー」の復活が大きくクローズアップされているが、その他にも仮想デスクトップの「タスクビュー」、新Webブラウザの「Edge」、音声アシスタントの「Cortana」等々の新しい機能を数多く持ち込んでいる。

またWindowsの最後のバージョンアップとも言われるWin. 10であるが、バージョンアップ方式（バージョン番号がアップ）からアップデート方式（ビルド番号がアップ）への提供方式の変更、アップデート直前のWindowsへの復元機能等々新しい方式も目を引く。

（参考）2015/10/18時点でのMS社のWin. 10の紹介サイト「Windows 10を初めてご利用になる方へ」は次のURLです。

<http://windows.microsoft.com/ja-jp/windows-10/getstarted-microsoft-account>

1. Windows Updateに関する大幅な変更.....	1
2. Win. 10は最期のバージョンアップと言われている(?)	4
3. Windows 10には直前の状態(直前ビルド)に戻す機能がある.....	6
4. スタートメニューの復活(帰ってきたWindows 7との声もある)	7
5. タスクビュー(仮想デスクトップ)	8
6. Microsoft Edge (I.E.に替わる新Webブラウザ)	13
7. Cortana (音声アシスタント)	18
8. Continuum (PCモードとタブレットモードのスムーズな切替え)	19
9. Sway (新しいプレゼンテーションソフト)	20
10. Windows Hello (生体認証)	22
11. Xbox (ゲーム) への対応.....	22
12. Windows Holographic と Microsoft HoloLens.....	22

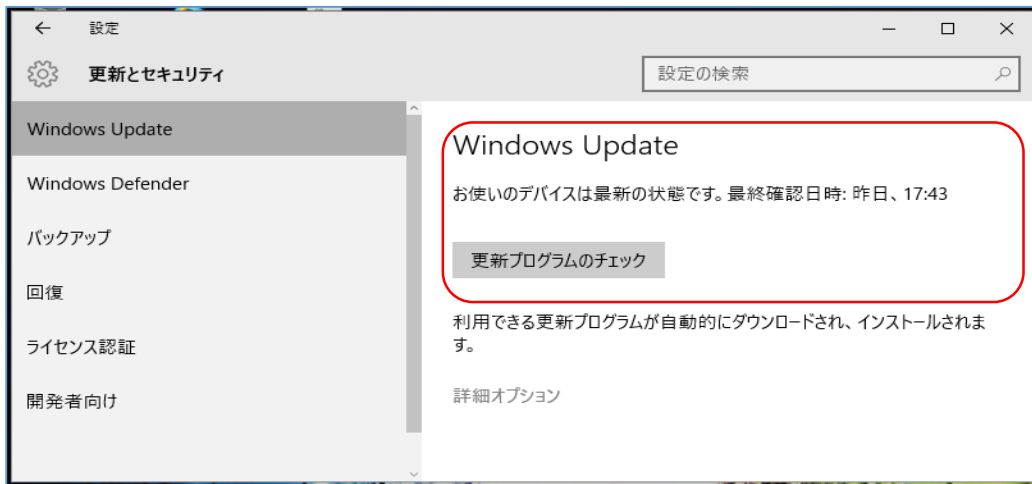
1. Windows Update に関する大幅な変更

ここでは、Win. 10 での Windows Update に関する変更点について説明する。

1) Windows Update を [コントロールパネル] から起動できなくなった

Win. 10 の Windows Update の起動手順は次の手順のとおりである。

☐ (スタート) → ≡ (よく使うアプリ) → ⚙ (設定) → 🔄 (更新とセキュリティ)



(補足) Windows Update でセキュリティ対応、不具合修正等の更新プログラムは自動インストールに変更され、新しい機能の追加はアップデートとして提供する。

(参考) Win. 8.1 以前の Windows Update の起動手順は次のとおりであった。

[コントロールパネル] → [システムとセキュリティ] → [Windows Update] で起動

(補足) Windows Update で更新プログラム毎にインストールの実行/非実行を制御でき、更にインストール済の更新プログラム毎にアンインストール等ができるので、文字どおり Windows 機能の制御盤 (コントロールパネル) であった。

2) [重要]、[オプション] の区分がなくなった

Win. 10 の Windows Update では、Win. 8.1 以前にあった「重要」、「推奨」、「オプション」と言う更新プログラムの種類がなくなり、次の 2 種類に置き換わった。

▶ セキュリティ対応や不具合修正等の更新プログラム

Win. 8.1 以前の「重要 (緊急を含む)」に相当する更新プログラムと思われる。

- ・ 自動的にインストールされるのでユーザは再起動の日時だけを設定が可能である。ただし手動で [更新プログラムのチェック] を行った場合は、それを契機にして自動的にインストールが始まる。
- ・ インストールする更新プログラムの選択、インストール済の更新プログラムのアンインストールは不可能である

▶ Windows のアップデート (ビルド番号が上る)

Win. 8.1 以前の「推奨」や「オプション」に相当する機能を含めたサービスパック的な Windows アップデートと言えるものであり、Windows に新しい機能が追加されてカレント

ブランチ (CB) になったら Win. 10 Home に自動的に開放される。Win. 10 Pro には数ヶ月遅れて解放される。

(参考) Win. 8.1 までの Windows Update の種類





種類	種類の意味 (定義) とインストール手段
重要	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ、プライバシー、信頼性向上など大きな利点がある更新プログラムである。提供されたらすぐにインストールすることが望ましい。 Windows Update で自動的にインストールできる
推奨	<ul style="list-style-type: none"> 重大でない問題に対処し、コンピュータ使用感の向上に役立つ。コンピュータや Windows の根幹にかかわる問題の対処ではない有用な機能向上を実現できる Windows Update で自動的にインストールできる
オプション	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータ使用感の向上をする更新プログラム、ドライバー、新しいプログラムが含まれる。 手動でインストールする必要がある。

(出所) 更新プログラム・よく寄せられる質問・Windows 7

<http://windows.microsoft.com/ja-jp/windows/updates-faq#1TC=windows-7>

3) Windows Update の詳細な設定

Win. 10 Home エディション、Win. 10 Pro エディションでの Windows Update の詳細設定の手順は次のとおりである。

- ①  (スタート) →  (よく使うアプリ) →  (設定) →  (更新とセキュリティ) とクリックし [設定] 画面を表示する
- ② [更新とセキュリティ] をクリックし [更新とセキュリティ] の [Windows Update] 画面に切り替える
- ③ [詳細オプション] をクリックし [詳細オプション] 画面に切り替える
- ④ 必要に応じて、次表に示すオプション機能を設定する

エディション別のオプションの設定項目は次表のとおりである。

エディション		Windows Update で設定できるオプション項目
Home	Pro	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Office その他のアプリの更新プログラム Windows の更新と同時に受け取るかどうかの選択
<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	完成版のカレントブランチの更新プログラムの受け取りを数か月間延期して、更なる安全性を確保する機能の選択
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	アプリや更新プログラムを Microsoft サイト以外からもダウンロードすることを許可
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	完成版のカレントブランチ (CB) の更新プログラムだけでなく、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 未完成の Insider Preview の更新プログラムも受け取るかどうかの選択。 ・ Insider Preview の更新プログラムをすぐに (Fast) 受け取るか、数日遅れて (Slow) 受け取るかの選択

Office その他のアプリも Windows と一緒に自動更新する場合はチェックを付ける

Microsoft サイトのほか、他の PC からアプリや更新プログラムをダウンロードする場合は、クリックした後に詳細を設定する

Insider Preview 版も試したい場合は、
[開始する] をクリックしてプレビュー版の入手手続きに進む

設定
詳細オプション
Home エディション

更新プログラムのインストール方法を選ぶ

自動 (推奨) ▾

すべてがスムーズに動作するように調整します。再起動は、デバイスが使用されていないときに自動的に行われます。従量制課金接続 (追加料金がかかる可能性のある接続) では、更新プログラムはダウンロードされません。

Windows の更新時に他の Microsoft 製品の更新プログラムも入手します。

更新履歴を表示する
更新プログラムの提供方法を選ぶ

Insider ビルドの入手

今後 Windows に加えられる更新や改良をいち早く試して、フィードバックをお寄せください。

開始する

注意: 他の更新プログラムを確認するときに、最初に Windows Update 自体が自動的に更新されることがあります。

プライバシーの設定

Office その他のアプリも Windows と一緒に自動更新する場合はチェックを付ける

チェックを付けると、新しい機能が追加された更新プログラム (CB) の受け取りを数ヶ月延期する (CB⇒CBB)

Microsoft サイトのほか、他の PC からアプリや更新プログラムをダウンロードする場合は、クリックした後に詳細を設定する

Insider Preview 版も試したい場合は、
[開始する] をクリックしてプレビュー版の入手手続きに進む

設定
詳細オプション
Pro エディション

一部の設定は組織によって管理されています。

更新プログラムのインストール方法を選ぶ

自動 (推奨) ▾

すべてがスムーズに動作するように調整します。再起動は、デバイスが使用されていないときに自動的に行われます。従量制課金接続 (追加料金がかかる可能性のある接続) では、更新プログラムはダウンロードされません。

Windows の更新時に他の Microsoft 製品の更新プログラムも入手します。

アップグレードを延期する
詳細情報

更新履歴を表示する
更新プログラムの提供方法を選ぶ

Insider ビルドの入手

今後 Windows に加えられる更新や改良をいち早く試して、フィードバックをお寄せください。

開始する

注意: 他の更新プログラムを確認するときに、最初に Windows Update 自体が自動的に更新されることがあります。

プライバシーの設定

4) バージョン番号とビルド番号

Windows の各バージョンには OS のバージョン番号が与えられていて、バージョン番号の 1 項目は OS に基本的な変更があったときに増加し、2 項目は OS バージョンが上りシステム名 (Vista、7、8 等) が変更された時に歩進 (+1) している。

3 項目の 4 項の数字はビルド番号と呼ばれる管理番号で、Win. Vista~8.1 ではサービスパックが提供される毎に歩進していた。Win. 10 ではブランチ (後述) が提供されると増加する。

略称	システム	システム情報	
	システム名	OS 名	バージョン
XP	MS Win. XP Professional Version 2002 Service Pack3	MS Win. XP Professional	5.1.2600 Service Pack 3 ビルド 2600
Vista	Win. Vista Ultimate Service Pack 2	MS Win. Vista Ultimate	6.0.6002 Service Pack 2 ビルド 6002
7	Win. 7 Ultimate Service Pack 1	MS Win. 7 Ultimate	6.1.7601 Service Pack 1 ビルド 7601
8	Win. 8 手持ち無く未確認 ⇒	MS Win. 8	6.2.8*** ビルド 8***
8.1	Win. 8.1 Pro	MS Win. 8.1 Pro	6.3.9600 ビルド 9600
10	Win. 10 Pro Insider Preview	MS Win. 10 Pro Insider Preview	10.0.10565 ビルド 10565 (現行 CB のビルド 10240)

(私見) Win. Vista がビルド 600*、Win. 7 がビルド 760*、Win. 8 がビルド 8***、Win. 8.1 がビルド 960*、Win. 10 が ビルド 10***であることから、Win. 8.1 は Win. 9 の予定だったのではないかと勘ぐっている。

(参考) バージョン番号、ビルド番号は次の手順で「システム情報」を表示して確認できる。

【Win. XP の場合】

[スタート] → [ヘルプとサポート] → ツールバーの [サポート]
→ ウィンドウの左側の [詳細情報] → [システムの詳細情報]
→ ウィンドウの左側の [システム詳細情報を表示する (Msinfo32.exe)]

【Win. Vista、Win. 7 の場合】

[スタート] → [コントロールパネル] → [システムとメンテナンス]
→ [管理ツール] → [システム構成] → [ツール] → [システム情報] → [起動]

【Win. 8.1、10 の場合】

[スタート] 右クリック → [コントロールパネル] → [システムとセキュリティ]
→ [管理ツール] → [システム情報]

2. Win. 10 は最期のバージョンアップと言われている (?)

Windows は数年毎にバージョンアップ (XP→Vista→7→8/8.1→10) を続けてきたが、Win. 10 が最後のバージョンアップと言われている。今後は短い期間で小さな改善や機能追加を繰り返すアップデート (ビルド番号で識別) を行う方式に変更された。

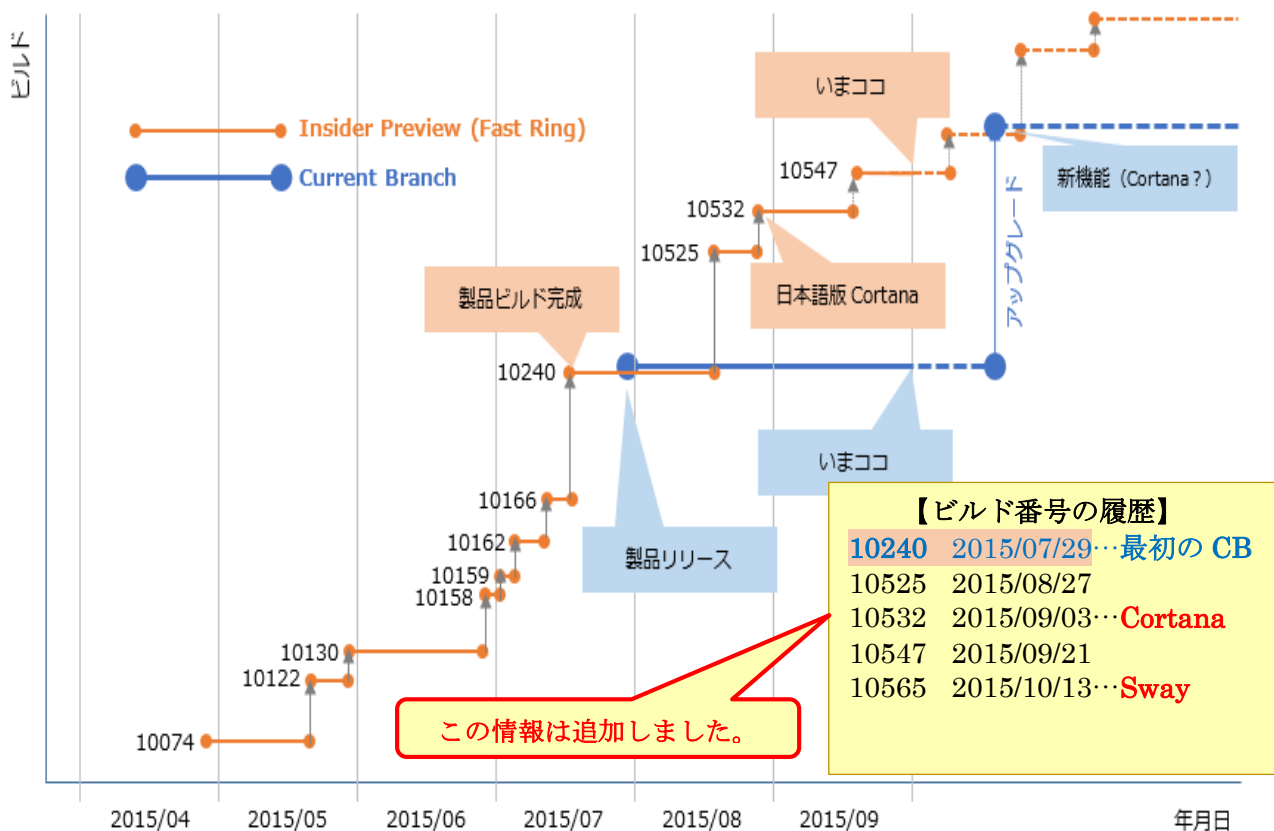
マイクロソフト社はこの方式をローリングリリース方式 (断続的で頻繁な開放) と呼んでいる。

Win. 10 に新しい機能が追加されたらカレントブランチ (CB) としてアップデート版 (ビルド番号が上る) が提供される。Win. 10 では CB の提供をすぐ行うか、時期を遅らせて行うかを ^{ブランチ} Branch (枝分かれ) と呼ばれるグループに分けて管理している。

ブランチ (アップデート受け取りの「速い」 / 「遅い」のグループ) の種類

ブランチ	エディション			更新プログラムの概要
	Home	Pro	Enterprise	
カレント ブランチ Current Branch (CB)	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ対応、不具合修正等の更新プログラム 新しい機能が追加されたら最新の CB になり、Windows Update などを通じて一般に開放 ※年に 2～3 回程度の開放か？
カレント ブランチ for Business Current Branch for Business (CBB)	×	○	○	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ対応、不具合修正等の更新プログラム (ビジネス用途で必要としない) 新しい機能は数ヶ月間受け取りを延期できる ※最大の延期期間は現時点では不明
ロング ターム サービシング ブランチ Long Term Servicing Branch (LTSB)	×	×	○	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ対応、不具合修正等の更新プログラム 金融、工場、制御装置等では新しい機能の追加を受け取らない選択もできる
(参考) インサイダー Insider ビルド (IB)	○	○	×	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ対応、不具合修正等の更新プログラム 新しい機能が追加されたら、Insider Programの参加 PC 等に対して直ちにプレビュー版として開放 ※月に 1～2 回程度の開放？ ※プレビュー版の評価とフィードバックが行われ安全性と安定性が確認された後 CB になる

Win. 10 におけるブランチのイメージ図



atmarkIT サイトの「Windows 10 と Office 2016 のブランチ更新概論」(2015/10/06) より

http://www.atmarkit.co.jp/ait/articles/1510/06/news018_2.html

3. Windows 10 には直前の状態（直前ビルド）に戻す機能がある

Win. 10 はアップデート（ビルド番号が上る）時に自動的に作成したバックアップデータを使用し、ロールバック（巻き戻し）してアップデート直前の Windows に戻すことができる。

（追記）筆者のタブレットでカレントブランチ（ビルド 10240）から Insider Preview（同 10532）にアップデートしたところ内蔵無線 LAN がネット接続不能になった。その時このロールバック機能で直前の状態（ビルド 10240）に戻すことができ事なきを得た。このロールバック用のバックアップデータは、Win. 10 のアップデート（ビルド番号が上る）時に、長時間続く「アップデートの準備中」の処理で作られている。

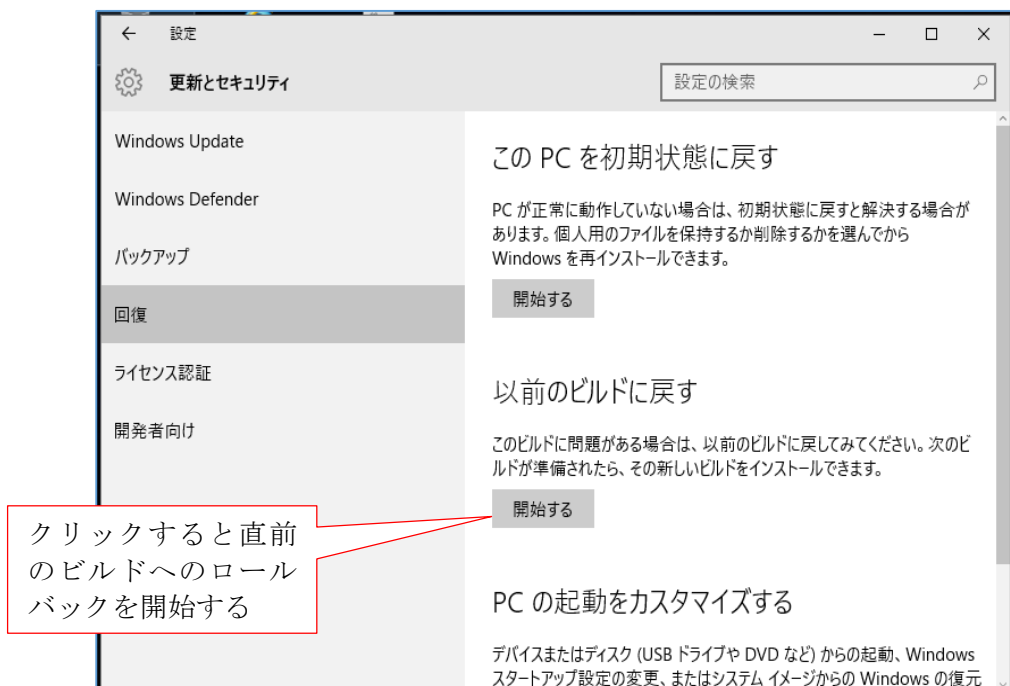
なおこのバックアップデータは隠しフォルダ（C:\Windows.old と C:\Windows.\~BT）に保存されるが、ディスク領域の節約のため 30 日経過後、あるいは手動での C:ドライブのクリーンアップで自動的に削除される。そのため以後はバックアップデータを用いてロールバックできない。またアップグレード/アップデート後にユーザカウントの追加、削除が行われた場合にもこのバックアップデータを使用したロールバックによる復元はできないようである。

（参考）「アップグレードした Windows 10 をロールバックして Windows 7/8.1 に戻す」

URL : <http://www.atmarkit.co.jp/ait/articles/1508/10/news031.html>

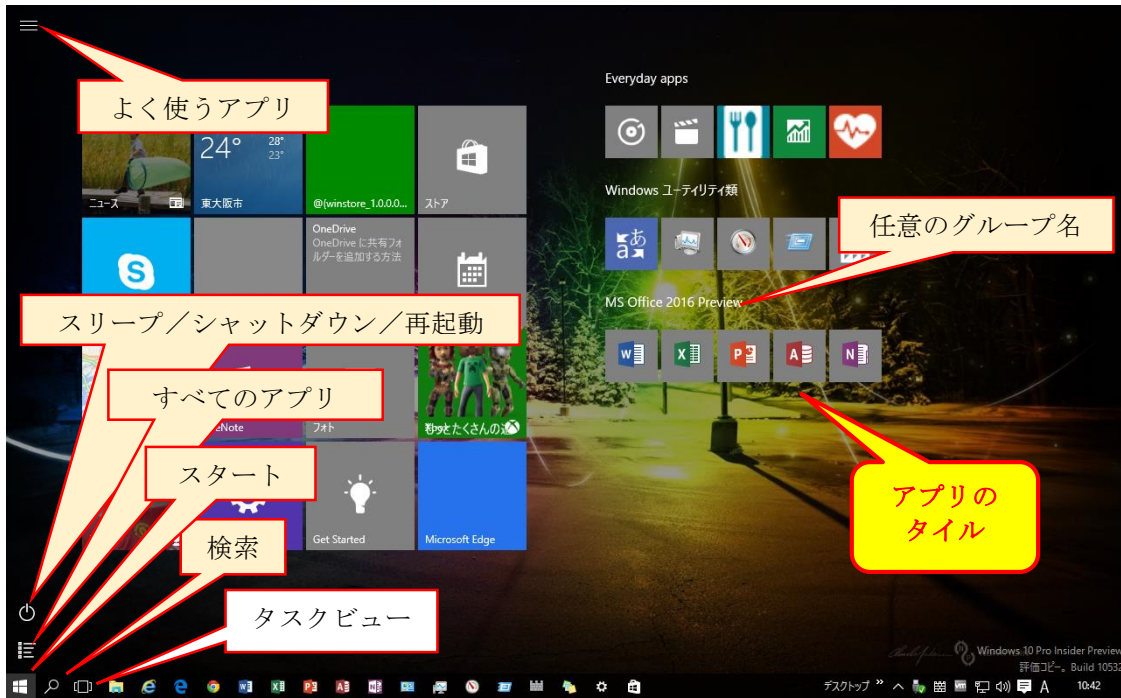
ここでは、自動的作成されたバックアップデータを用いたロールバックの手順を説明する。

- ① [スタート] → [よく使うアプリ] → [設定] とクリックし [設定] 画面を表示する
- ② [更新とセキュリティ] をクリックし [更新とセキュリティ] の [Windows Update] 画面に切り替える
- ③ [回復] をクリックし [この PC を初期状態にもどす] 画面に切り替える
- ④ [開始する] をクリックして、ロールバック処理を始める。



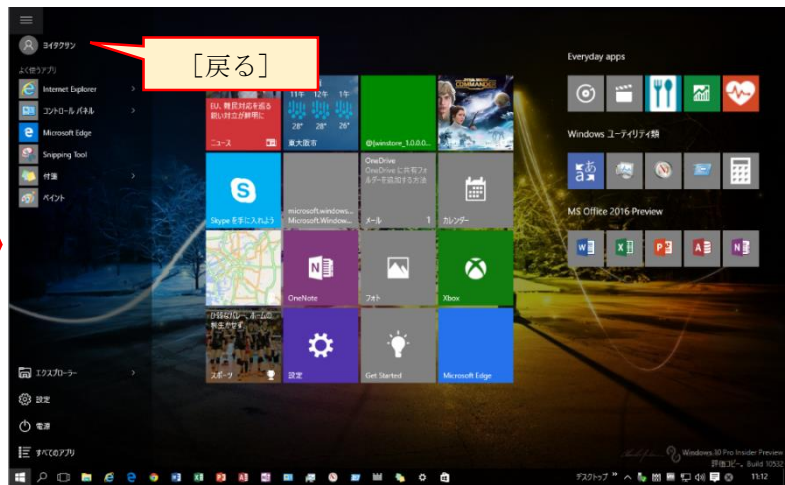
4. スタートメニューの復活 (帰ってきた Windows 7 との声もある)

ここでは Windows 10 Pro の Insider Preview (試用版) のビルド 10532 (Current Branch は 10240) を使用して、Windows 10 のメニュー (デスクトップ) を説明する。

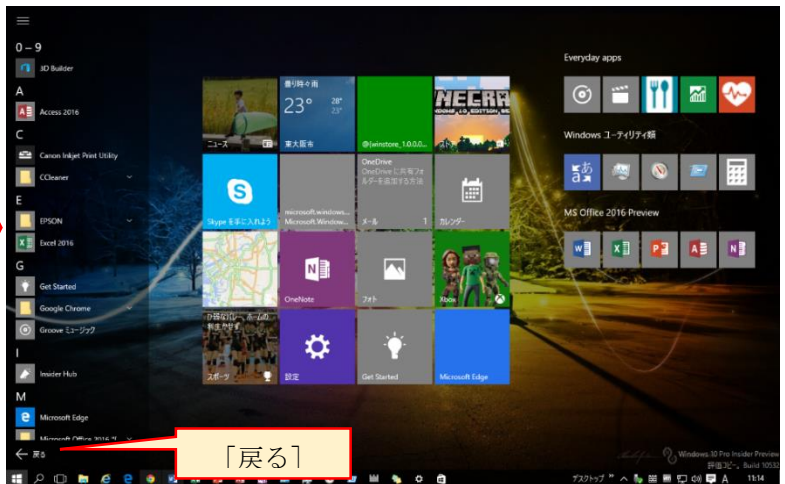


帰ってきた「Windows 7」の声も言われている

[よく使うアプリ]
 ボタンをクリックして、
 使用頻度が高いアプリの一覧を表示した状態



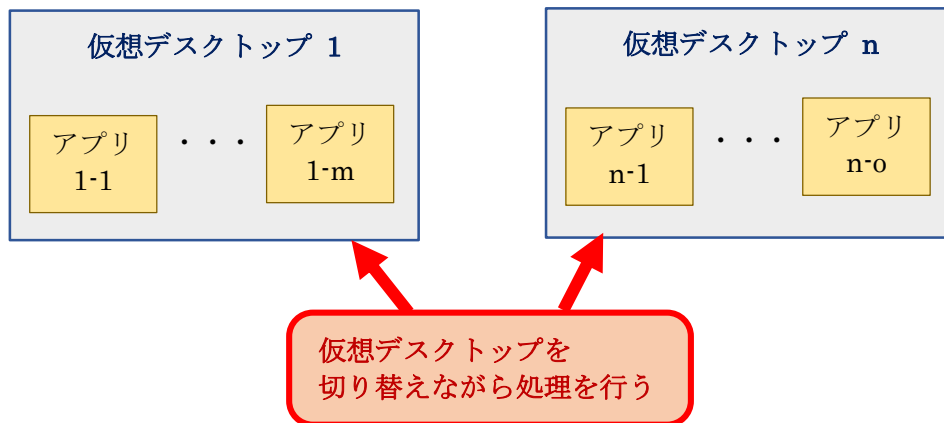
[すべてのアプリ]
 ボタンをクリックして、
 インストールされた全アプリの一覧を表示した状態



5. タスクビュー (仮想デスクトップ)

Win. 10 の新機能である「タスクビュー」は、次の 2 種類の機能をもっている。

- ▶ デスクトップで起動中のアプリの縮小版をデスクトップ画面に整然と配置する機能であり、目的のアプリの縮小版をクリックしてそのアプリを最前面に表示させて使用する。
- ▶ デスクトップ上に複数の仮想デスクトップ画面を作り、各々の仮想デスクトップ画面で 1 個～複数個のアプリを起動して、各仮想デスクトップを切り替えながら表示した仮想デスクトップ上のアプリを操作し実行させる。



1) 任意のアプリを一番上 (最前面) に表示させる

デスクトップ上に複数のアプリを開いて、それぞれのアプリを同時に実行させている場合に、下に隠れているアプリの状態を見たり、アプリに入力したり、アプリを操作したりする場合は、対象のアプリを最前面に表示させる必要がある。

ここでは ①Word、②Excel、③Internet Explore、④Defend、⑤MS Edge の 5 個のアプリを順番に起動している状態で、[タスクビュー] ボタンを用いて下から 2 番目の Excel を 1 番上に表示させる手順を説明する。

- ① 順番に開いたアプリのうち最後に開いた MS Edge が一番上に表示されていて、2 番目に開いた Excel は下から二番目に隠れて見えない。




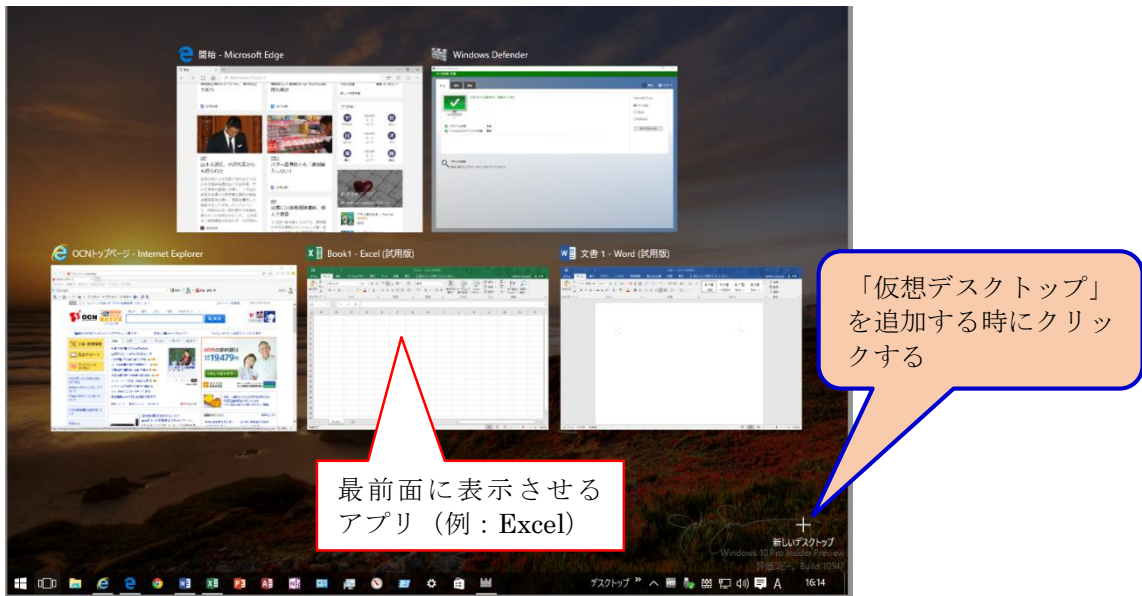
アプリのウィンドウは起動順に、下から積み重ねられて表示する

- ① Word
- ② Excel
- ③ Internet Explore
- ④ Defender
- ⑤ MS Edge

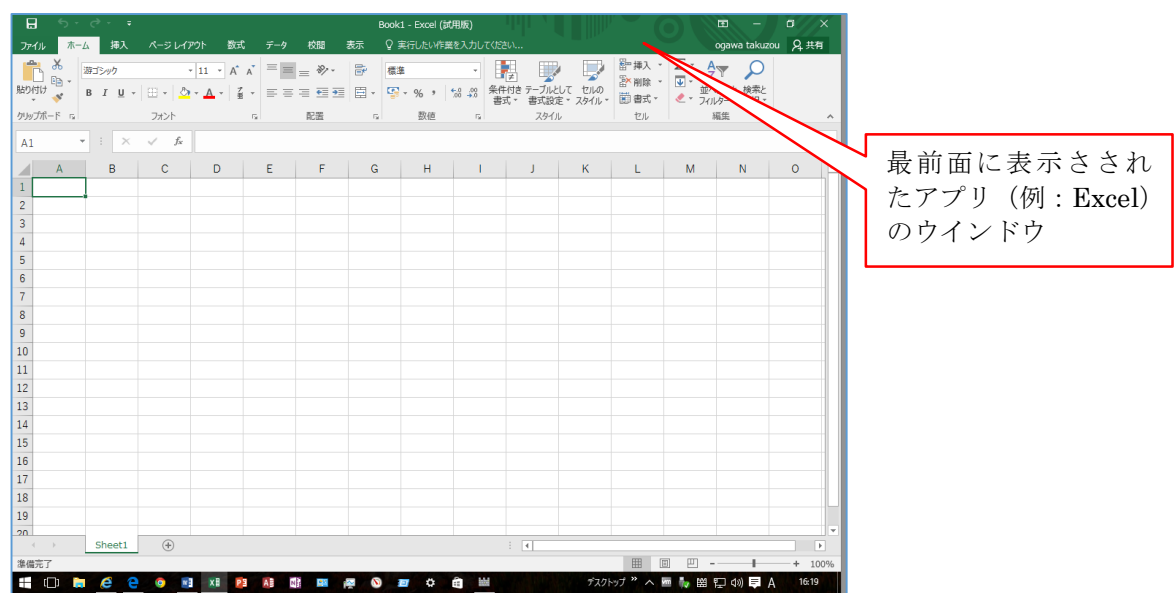
複数のアプリを①～⑤の順に起動

最後に起動した MS Edge が一番上に表示された

- ② タスクバーにある  (タスクビュー) をクリックして、デスクトップに重なって表示されている 5 個のアプリを縮小版で整頓して表示させる



- ③ 一番上 (最前面) に表示させたいアプリ (例: Excel) の縮小版をクリックしてそのアプリを最前面に表示する。




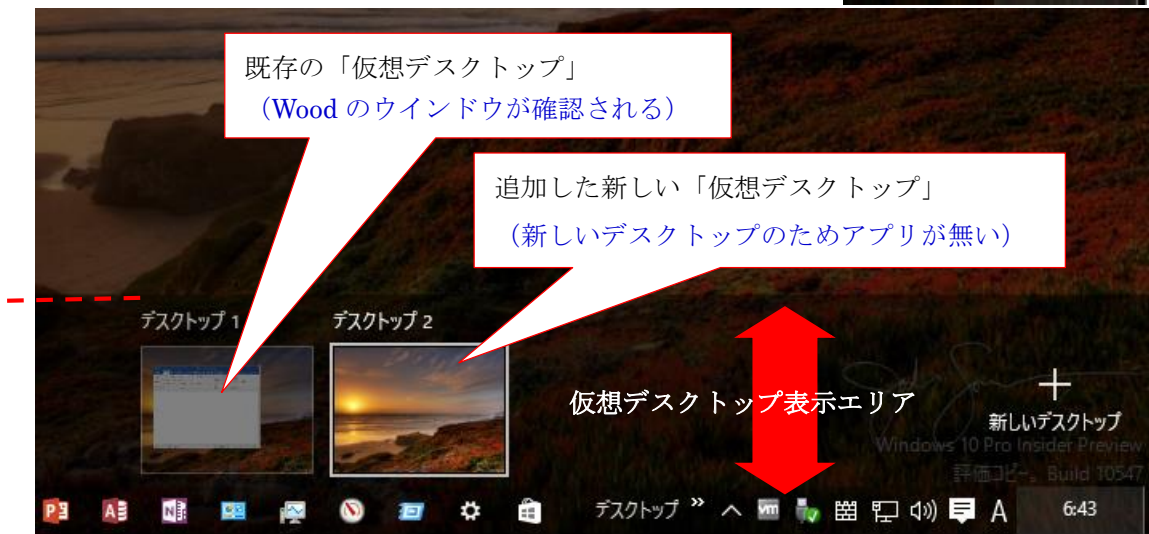
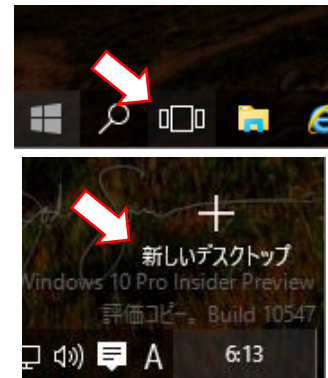
2) 新しい仮想デスクトップを追加し表示する

PCの「デスクトップ」は作業機の板面に相当する。マルチタスク (マルチスレッド) OS である Windows では作業機の板面で複数のアプリ (作業) を並行して実行することができる。

Win. 8.1 まではこの作業機の板面 (デスクトップ) が 1 枚だけであったが、Win. 10 では新しく「仮想デスクトップ」と呼ばれる機能が導入され、仮想の板面を複数枚持てるようになった。これは作業機に仮想の板面 (仮想デスクトップ) を必要数だけ積み重ねられる機能であり、それぞれの仮の画面では複数のアプリを並行して処理できるようになった。

ここでは、仮想デスクトップを 2 枚 (デスクトップ 1、デスクトップ 2) 作り、2 枚の仮想デスクトップを切り替えながら作業を行う手順を例に説明する。

- ① 目印のために、既存（現在）のデスクトップで Word を起動して Word のウインドウを表示させておく
- ② タスクバーの左にある （タスクビュー）をクリックして [デスクトップ] の右下に [+新しいデスクトップ] アイコン表示させる
- ③ [+新しいデスクトップ] をクリックすると、ウインドウ下部の 2 割程が黒味を帯びた「仮想デスクトップ表示エリア」に変わる。このエリアでは既存の仮想デスクトップが「デスクトップ 1」、追加された仮想デスクトップが「デスクトップ 2」として表示される

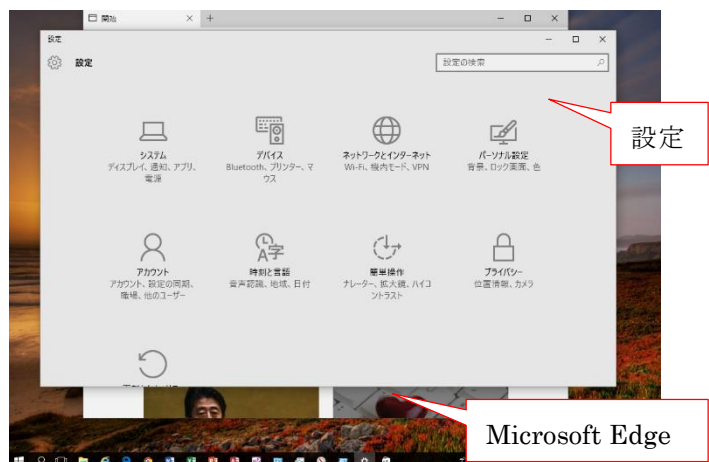



- ④ デスクトップの上部の「仮想デスクトップ表示エリア」ではない場所をクリックすると、新しく作成され選択されている「デスクトップ 2」が最前面に表示される

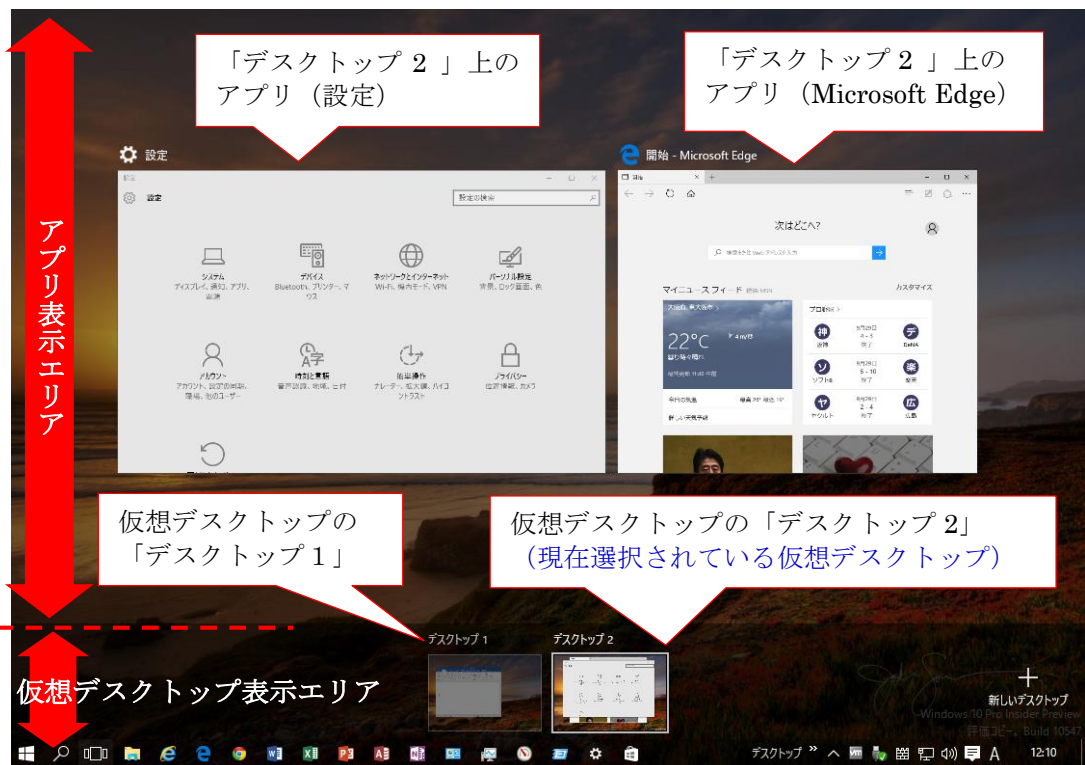
3) 新しいデスクトップ（追加した仮想デスクトップ）上でアプリを起動する

ここでは、前項の ④で表示されている「デスクトップ 2」に 2 個のアプリ（例：「Microsoft Edge」と「設定」）を起動する手順を説明する。

- ① 前項 ④で新しいデスクトップの「デスクトップ 2」が表示された状態で、アプリが 1 個も表示されていないことを確認する。
- ② [スタート] → [すべてのアプリ] → [Microsoft Edge] とクリックして「Microsoft Edge」を起動する
- ③ [スタート] → [よく使うアプリ] → [設定] とクリックして「設定」を起動する




- ④ タスクバーの  (タスクビュー) をクリックして [タスクビュー] を表示させる



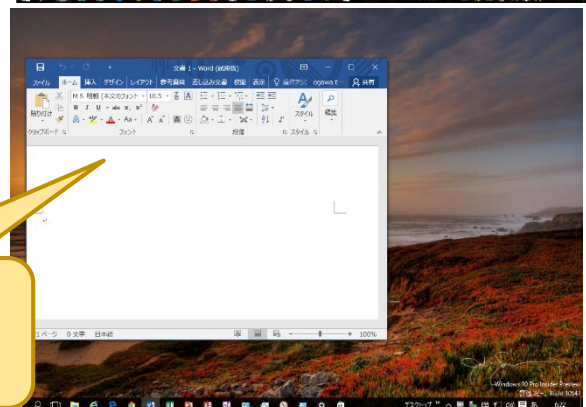
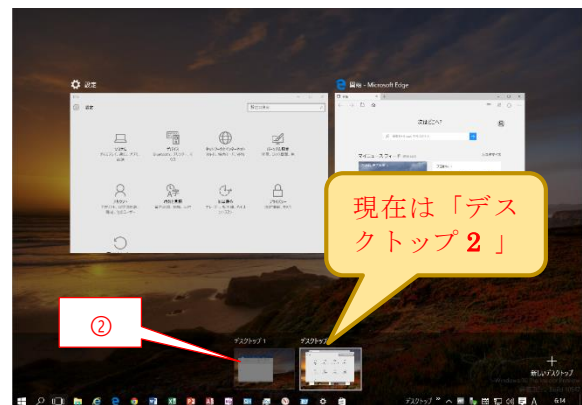
4) 目的の仮想デスクトップの目的アプリに移動する

【例1】仮想デスクトップの「デスクトップ1」で起動されている「Word」を開く


- ① タスクバーの  (タスクビュー) をクリックして [タスクビュー] を表示させる

- ② 仮想デスクトップ表示エリアにある「デスクトップ1」をクリックして「デスクトップ1」を開く

(注) 「デスクトップ1」では「Word」だけ起動されているので、表示したデスクトップには「Word」が表示される

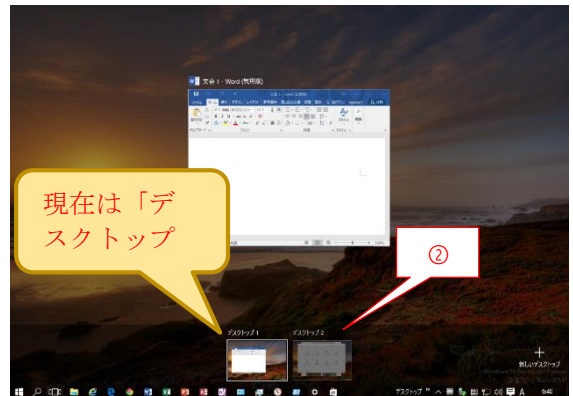


【例2】仮想デスクトップの「デスクトップ2」で起動されている「設定」を開く

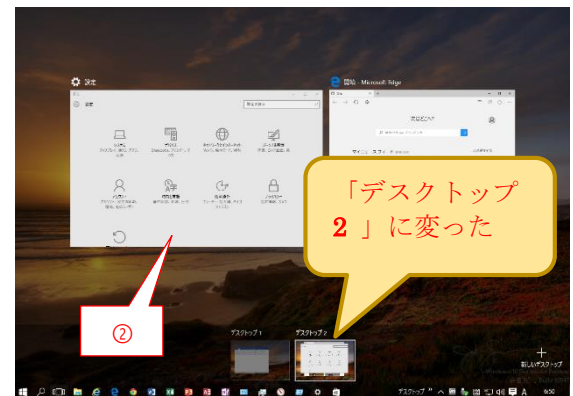
① タスクバーの (タスクビュー) をクリックして [タスクビュー] を表示させる

② 仮想デスクトップ表示エリアにある「デスクトップ2」をクリックして「デスクトップ2」を開く

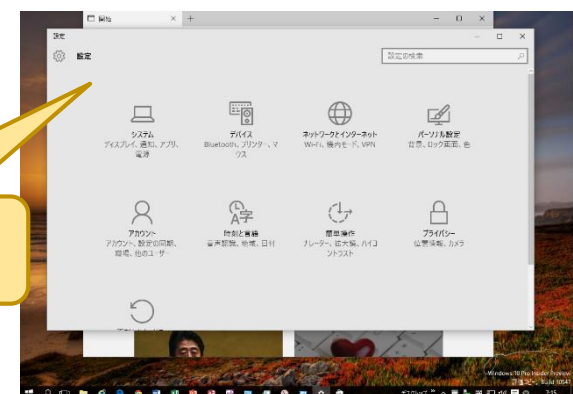
(注) 「デスクトップ2」では「MS Edge」、「設定」の2個のアプリが起動されているので、2個のアプリの縮小版が表示される




③ アプリ表示エリアの「設定」縮小版をクリックして「設定」を最前面に表示する




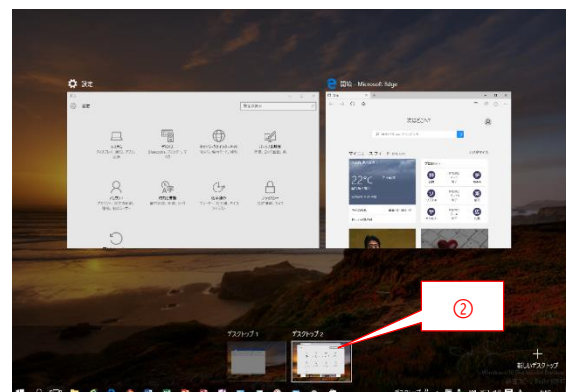
「デスクトップ2」に「設定」ウインドウを表示



【例3】仮想デスクトップを統合する

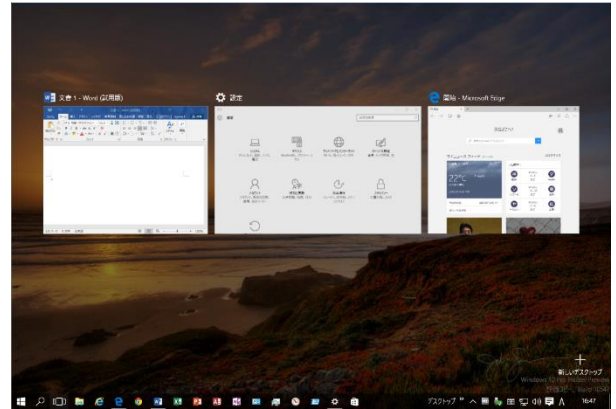
① タスクバーの (タスクビュー) をクリックして [タスクビュー] を表示させる

② 仮想デスクトップ表示エリアにある「デスクトップ2」縮小版にマウスを置くと、 が表示される



- ③ その **×** にマウスを移し **×** に変化させた後、クリックすると「デスクトップ 1」が削除され、「デスクトップ 1」で起動されていた「Word」が「デスクトップ 2」に統合される。

なお統合後の「デスクトップ 2」は仮想デスクトップでなく、単なる「デスクトップ」に変わる

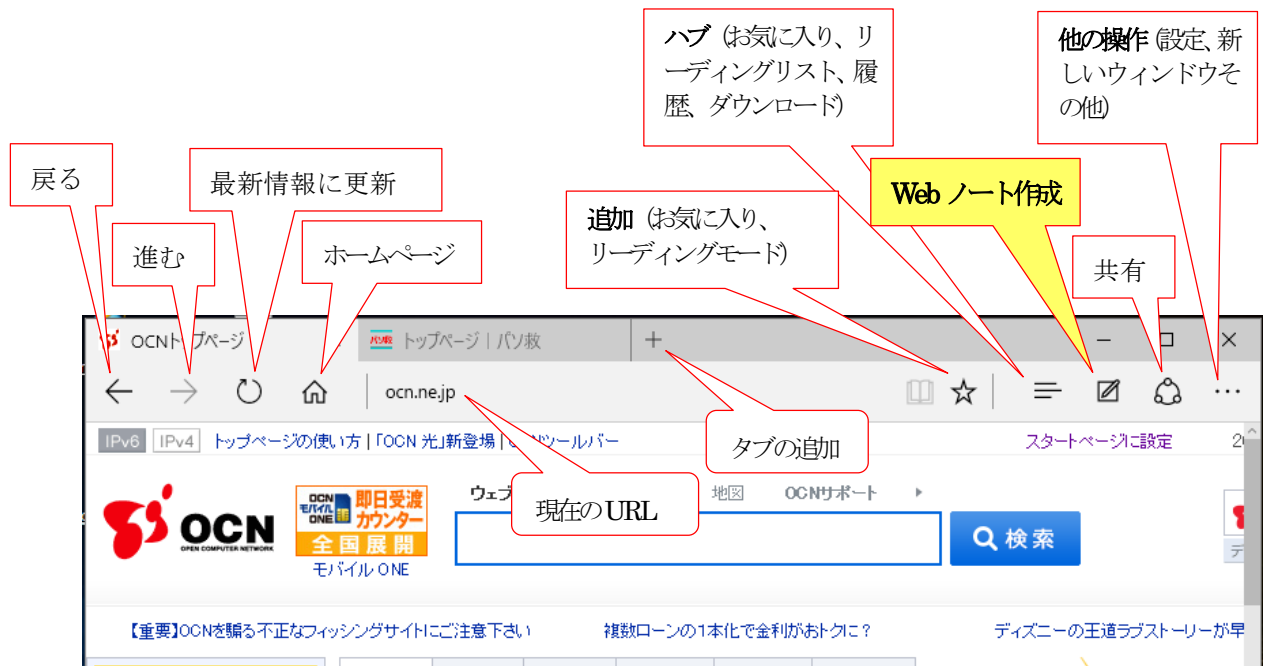


6. Microsoft Edge (I.E.に替わる新 Web ブラウザ)


長い間 Internet Explore (通称 I.E.) は Web ブラウザの代名詞であったが、Windows 10 では新たに Microsoft Edge が提供された。現在は Win. 10 用の I.E. も提供されているが、やがて新しく提供された Edge に置き換わると思われる。

1) Microsoft Edge の外観

Microsoft Edge の外観はツールバーが少なくあっさりしていて Google 社の Chrome や Mozilla 社の Firefox と似たイメージである。



2) Microsoft Edge の「Web ノート作成」

ツールバーの  (Web ノート作成) ボタンをクリックして [Web ノート作成] ツールバーを表示させた後、

[ペン]、[蛍光ペン]、[消しゴム] を用いて表示されている Web ページに手描きで線、図形、文字等を書き込んで Web ノートを作成する。



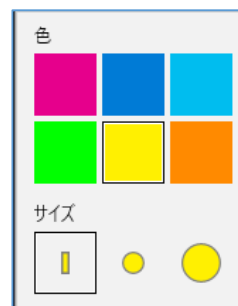
以下に [Web ページの作成] の各ボタンの機能を説明する。

【 ペン】機能

- ① [ペン] ボタンをダブルクリックしてメニューを表示すると共に、[ペン] 機能をオンにする
- ② 必要に応じて、[ペン] の色とサイズを設定する
- ③ ペンで線画を描いたり、手書き文字を書き込んだりする
- ④ 他のアイコン (例: 消しゴム) をクリックして [ペン] 機能をオフにする

【 蛍光ペン】機能

- ① [蛍光ペン] ボタンをダブルクリックしてメニューを表示すると共に、[蛍光ペン] 機能をオンにする
- ② 必要に応じて、[蛍光ペン] の色とサイズを設定する
- ③ 蛍光ペンで線画を描く
- ④ 他のアイコン (例: 消しゴム) をクリックして [蛍光ペン] 機能をオフにする



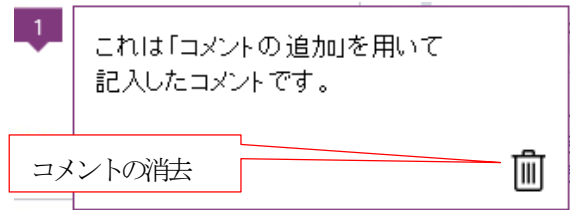
【 線画/手書き文字を消去する手順】

[ペン] や [蛍光ペン] で描いた線画や手書き文字を消去したい場合は、次の手順で消去する


- ① [消しゴム] ボタンをクリックして [消しゴム] 機能を有効にする
- ② 消したい [線画] や [手書き文字] をなぞって消去する

【コメントの追加】機能

- ① コメントを追加する位置をクリックして
1 (コメントマーク) と [コメント] 枠を表示する
- ② [コメント] 枠にコメントを入力する
- ③ 他のアイコン (例: 消しゴム) をクリックして [コメントの追加] 機能を無効にする



【コメントを消去する手順】

- ① 消去する [コメント] 枠右下の  (消去) をクリックして該当のコメントを消去する

【クリップ】機能

- ① [クリップ] ボタンをクリックして [クリップ] 機能をオンにする
- ② Web ページのコピーしたい部分を四角形 (左上から右下方向にドラッグ) に範囲選択すると、選択範囲がクリップボードにコピーされる
- ③ 必要に応じて、他のアプリ (Word、Excel 等) にクリップボードから貼付けを行う

【Web ノートの保存】機能

加工/編集した状態の Web ページは、次の手順でファイルとして保存できる。

- ① [Web ノートの保存] ボタンをクリックしてメニューを表示する
- ② 必要に応じて、保存先 (OneNote^(※1)、お気に入り、リーディングリスト^(※2)) を選択する
- ③ 必要に応じて、保存ファイルの名前 (ファイル名) を入力する
- ④ 「OnNote」の場合は [保存]、「お気に入り」と「リーディングリスト」の場合は [追加] をクリックして保存を行う



【終了】機能

- ① [終了] ボタンをクリックして「Web ノート」を終了する

(※1) OneNote は、情報 (文字、ば造、図形、票、手書き文字等) を集めるデジタルノートであり、さまざまな情報を登録・管理するアプリである。

OneNote にはファイルの概念が無く、自動的に OneDrive に情報が保存されて、

- ① ノートブック (=物理的なノートに相当)、② セクション (=ノートを分割した単位)、③ ページ (=登録単位の 1 枚 1 枚のページ) の単位で管理できる。

OneNote には、無償版の「MS OneNote」と有料版の「MS Office OneNote」があり、「MS OneNote」は 2014/03 に無料公開されたもので「MS Office OneNote」の一部の機能が省略されているが、一般的な使用ではほとんど問題はない。「MS OneNote」は Windows 版の他、Mac 版、iOS 版、Android 版がネットで公開されている。

Win.版: <http://www.onenote.com/>

iOS 版: <https://itunes.apple.com/app/microsoft-onenote/id410395246?mt=8>

Android: <https://play.google.com/store/apps/details?id=com.microsoft.office.onenote&hl=ja-jp>

(※2) リーディングリストは、目的の Web ページを保存して後からオフラインで閲覧することができる機能である。

Win. 8.1 のスタート画面の Internet Explore では、[チャーム] → [共有] → [リーディングリスト] の順にクリックして、Web ページを「リーディングリスト」として保存する機能が追加された。また保存したリーディングリストを読むための「リーディングリストアプリ」が標準アプリとして準備されている。

3) Microsoft Edge の検索を Big から Google に変えるには

MS Edge は言うまでもなく MS 社の製品である。MS 社はソフト販売からサービス販売へとビジネスモデルを大転換しようとしているので、同社の検索プロバイダ^(※1)である Bing^{ビーイング}を普及させようとやっきであり、当然のこととして MS Edge では Bing を既定の検索プロバイダにしている。

(※1) 検索プロバイダとは、検索サービス (検索エンジン) 提供する企業を言い、Google^{グーグル}、Bing^{ビーイング} (MS 社)、Yahoo^{ヤフー}等があり、PC に加えてスマホが浸透したこともあり 2015/08 時点での日本と世界でのシェアは Google (世界 : 89.26%、日本 : 61.12%)、Yahoo! (世界 : 3.36%、日本 : 32.57%)、Bing (世界 : 3.45%、日本 : 5.62%) の 3 社が覇を競っている。

なお日本での Yahoo! のシェアが異常に高いのは、ポータルサイト (インターネットの入り口) として早くから日本に進出して (Yahoo Japan の筆頭株主はソフトバンクグループ)、多彩なサービスを展開しているためと言われている。

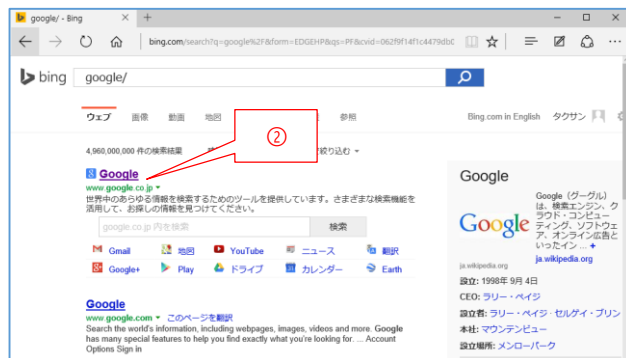
また巨大人口 (13 億人強、世界人口 71 億人の 18% 強) を抱える中国の百度公司^{バイドゥコンスー}が提供する Baidu^{バイドゥ} (世界 : 0.89%、日本 : 0.2%、中国 : 70%) がそれに続いている。

(シェアの出所) <http://ascii.jp/elem/000/001/039/1039953/>

(人口の出所) http://ecodb.net/ranking/imf_lp.html

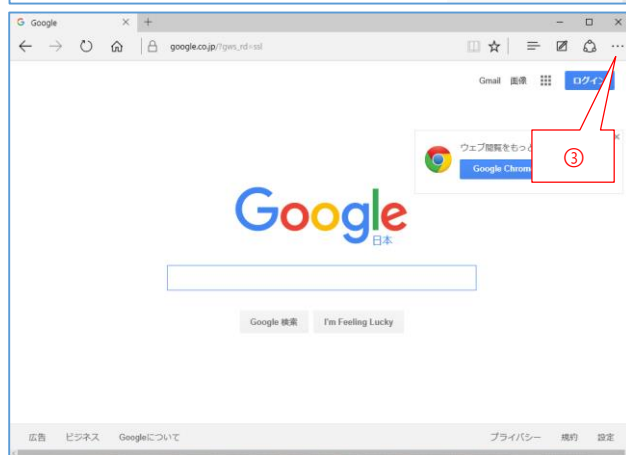
MS Edge の規定の検索エンジンになっている Bing を使い慣れている Google に変更する手順は次のとおりである。

① MS Edge を開き、[検索] 窓に「Google」と入力して検索を行う



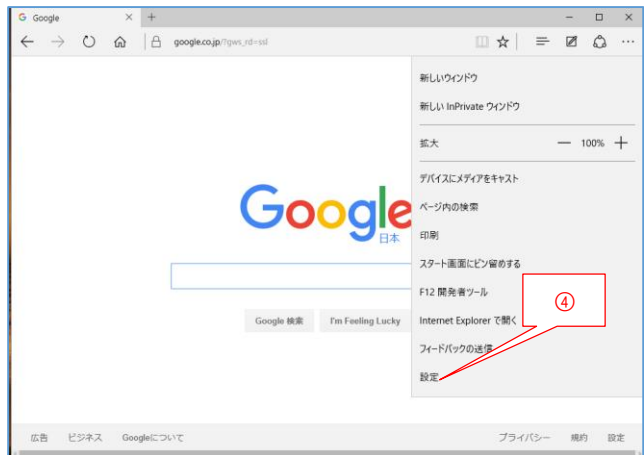
② ページの先頭付近にある「Google」をクリックして「Google.co.jp」に移動する

【重要】「Google.co.jp」を一度も開いていないと、後の手順で対象の検索エンジンとしてリストが表示されない



③ ツールバー右端の [⋮] をクリックして「他の操作」メニューを表示する

- ④ [設定] をクリックして「設定」メニューに移行する



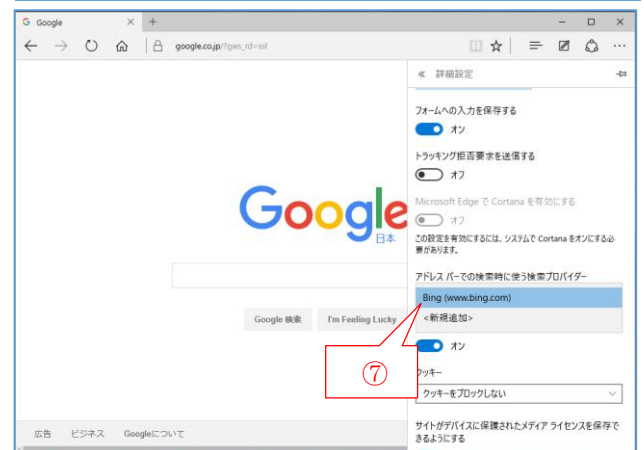
- ⑤ [設定] メニューを下方にスライドして詳細設定の [詳細設定を表示] を表示させた後、クリックし [詳細設定] メニューに移行する



- ⑥ [詳細設定] メニューを下方にスライドして [アドレスバーでの検索時に使う検索プロバイダ] を表示させた後、下の行の入力枠の「▼」をクリックして <新規追加> を表示する



- ⑦ <新規追加> をクリックして「検索プロバイダの追加のリスト」を表示する



- ⑧ リストに表示された「www.Google.co.jp」をクリックし選択した後、
[規定に追加]をクリックして検索エンジンが「Google」に入れ替える



7. Cortana (音声アシスタント)

^{コルタナ}
Cortana (音声アシスタント) は MS 社がやっと世に出した音声アシスタントソフトであり、音声認識機能により、Web 検索、予定表やリマインダー (備忘通知) の登録・参照、OneNote (メモ) の問い合わせ等を行うことができる。

(補足) Cortana では Web 検索の他次のようなコマンドが使用できる。


- ・ 現在地の「天気はどう?」、「…の天気はどう?」
- ・ 「スケジュールに入っている予定は?」、「…の予定は?」
- ・ 「…までどのくらい時間がかかる?」
- ・ 現在地から「…へはどう行けばいい?」 ←←← Bing Map で道順を表示
- ・ 「メモを見せて」、「…のメモを見せて」 ←←← OneNote
- ・ 予定の書込み (例 「…日の…時に会議の予定」)
- ・ 予定の変更 (例: 「…日の…時に会議を…日の…時に変更する」)
- ・ リマインダー (備忘通知) の設定、リマインダーの表示
- ・ アラームの設定、アラームの表示

10 年前の純正カーナビにはすでに日本語での音声入力機能が搭載され、数年前のスマホ (iPhone の「Siri」、Google の「OK Google」) にも日本語の音声アシスタント機能が搭載されている。しかし Windows では作業効率が高いキーボードやマウスが発達し普及しているためか、音声アシスタント機能は搭載されないままであった。

これは Windows が PC 用 OS であり、PC の多くが企業や家庭の机の上で使用される現状を考えると、タッチパネル入力や音声入力が必要かどうかは意見が分かれるところではある。 私見であるが、Cortana は PC 向けの機能ではなく、モバイル端末 (Windows Phone、タブレット) 向けの機能と思われる。

提供が遅れていた日本語の試用版 (2015/08/28 公開、Insider Preview のビルド 10532) の^{コルタナ}Cortana がやっと提供されたので、数ヵ月後には CB (カレントブランチ) として一般ユーザに提供されるものと思う。



ここでは Cortana の初期設定と使用方法の手順の概略を説明する。なお紙面の都合と正規版での変更を考慮して説明画像は省略する。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] でプログラムリストを開く
- ② [Cortana] をクリックして「検索」画面を開く
- ③  (設定) をクリックして [検索] の [設定] 画面に移動
- ④ 上部に「**選択した地域と言語では、Cortana はサポートされていません**」が表示された場合は、次の操作を行う。表示されない場合は ⑤に進む
 - a. [地域と言語] をクリックして設定の [地域と言語] 画面の移動する
[国または地域] が「日本」になっていることを確認し、

- b. [言語] が「日本語 Windows の表示言語」になっていることを確認する
 - c. [音声認識] をクリックして [音声認識の言語] が「日本語」になっていることを確認する
 - d. [マイク] 欄の [セットアップする] をクリックする
 - e. [←設定] をクリックし [設定] 画面に戻る
 - f. ×をクリックして [設定] を終了すると [マイクのセットアップ] 画面を表示する
 - g. [次へ] をクリックして [マイクのセットアップ] 画面に進む
 - h. 画面に表示された文章を普通の声で読み上げる
 - i. 「マイクのセットアップが完了しました」の画面になったら [完了] をクリックして処理を終わる
- ⑤ 「Cortana は、おすすめの最新情報の…、その他さまざまなことができます。」の下のスイッチを「ON」にして [お使いになる前に、いくつか情報をご提供ください。] に移動する
- ⑥ [同意する] をクリックして [なんとお呼びすればよろしいですか?] 画面に移動する
- ⑦ [名前またはニックネーム] 欄に名前を入力した後、[次へ] をクリックして [準備を完了] する
- 以上で Cortana の設定は終わりです。

Cortana の設定が終了したらタスクバーの  (Windows を検索) が  (なんでも聞いて下さい) に変る。

Cortana に質問や要求事項等がある時は、次の手順で Cortana を利用する。

- ① タスクバーの画面右下の  (なんでも聞いて下さい) をクリックして [Cortana] 画面を表示する
- ② 入力欄の右のある  (マイク) をクリックして […何かお役に立てることはありますか?] を表示した後、マイクに向かって質問や要求事項(例:大東市の天気は?)を話しかけると、Cortana 画面に情報を表示する
- ③ Cortana を終了する時は画面右上の [×] をクリックして画面を閉じる

8. Continuum (PC モードとタブレットモードのスムーズな切替え)


Win. 10 の ^{コンティニウム}Continuum (連続) は、急成長している 2in1 パソコン^(※1) の利便性を高める機能であり、2in1 パソコンで「パソコンモード」と「タブレットモード」をスムーズ (連続的?) に切り替える機能である。

MS 社は、iPad 等のタブレット端末の急成長に目を奪われて Win. 8 (2012/10/26 発売) をタッチスクリーン対応重視の「タブレット向けの OS」に急旋回させた。これはユーザが慣れ親しんでいるスタートメニュー方式の UI^(※2) を全面否定するものであり、Windows 操作の継続性を重視する多くのユーザや企業からの不評をかった。

MS 社は、この不評に対処するため Win. 8 の発売からわずか 1 年後 (2013/10/18) に新バージョンの Win. 8.1 を無償で公開して軌道修正を行った。しかし不評を挽回するには至らず、UI の全面的な変更を好まない多くの企業ユーザは Win. 8/8.1 を選択せず Win. 7 へのダウングレードを選ぶに至っている。

起死回生を図るべく、2015/07/29 に提供 (販売、無償アップグレード) を開始した Win. 10 では、キーボードを持つ PC 向けの Win. 7 に似たスタートメニュー方式を復活させると共に、キーボードを持たないモバイル端末向けのタイル方式 (モダン UI) の UI^(※1) も持つものに変えた。

Win. 10 で追加された新規機能の Continuum は 2in1 パソコンを使用する場合に、「パソコンモード」と「タブレットモード」の UI の切り替えを自動的に行う機能であるが、切り替え時にユーザの確認を求める設定も可能である。

またタスクバーの [通知領域] の  (アクション) の [タブレットモード] をクリックしてオン/オフすることで「パソコンモード」と「タブレットモード」を手動で切り替えることも可能である。

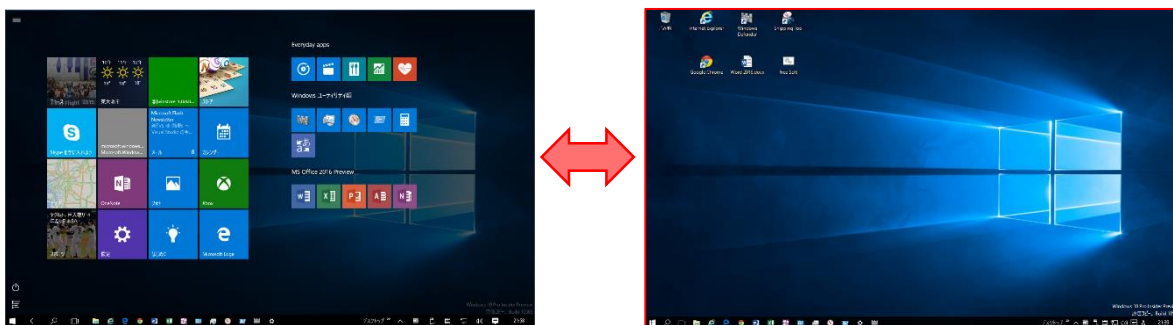
(※1) 2in1 パソコンはタブレットと PC を切り替えて使えるパソコンを言い、ハイブリッド タブレット パソコンとも言われる。2in1 パソコンは、タブレット本体からパソコンのキーボードを取り外してタブレットとして使用する「分離型 2in1」とディスプレイとつながったキーボードを裏側に回転させてタブレットとして使用する「回転型 2in1」、やや小型のキーボードをタブレット本体の裏にスライドさせてタブレットと使用する「スライド型 2in1」等に大別される。

(※2) UI (User Interface) とは、コンピュータを操作するときの画面表示、ウインドウ、メニューの言葉などの表現や操作のことをいい、情報をやりとりする上でのコンピュータと人間の接点となるので、機器の使用感に大きく影響する。

UIには文字入力で操作する CUI (キャラクタユーザインターフェイス)、図形などをマウス等で選択して操作する GUI (グラフィカルユーザインターフェイス) がある。

【パソコンモード】

【スタート】 ボタンをクリックするたびに、メニュー画面とデスクトップ画面が替わる



【タブレットモード】

【スタート】 ボタンをいくらタップしてもメニュー画面のままで変化しない。



画面は変化しない

(アプリのウインドウは最大と最小であり、縮小はない)

9. Sway (新しいプレゼンテーションソフト)

2015/10/13 に Insider Preview として提供されたビルド 10565 に耳慣れない^{スウェイ}Sway (英語で、揺らぐ、影響力、支配等の意味) が新規追加されているので、2~3 ヶ月後に CB (カレントブランチ) と一般ユーザに提供されると思われる。

(注) 「Sway」は 2015/08/06 に「Windows ストア」で公開されていた。

「アイデアをカタチにするアプリ。Sway は、仕事、学校、家庭用のデジタル ストーリーテリングアプリ。洗練されたインタラクティブなレポート、プレゼンテーション、個人的なエピソードなどの創作と共有が詳細を表示」と書かれていて、機能として次のように書かれている。

- インタラクティブなコンテンツを使ったストーリーテリング
- コンテンツの基づいた検索結果候補を表示
- Sway を使えば、素晴らしいデザインの作品たちが生まれ変わる
- リンクを送るだけで共有や共同作業が簡単に行える
- クラウドで同期
- 複数のデバイスでの表示と編集
- 職場や学校のアカウント、Microsoft アカウントを使ってサインインできる

なお MS 社の「Office ^{ブログ} Blogs」サイトには次のように記載されている。

URL : http://blogs.technet.com/b/microsoft_office_archive/2015/08/06/sway-release-announce-2015.aspx

Sway 及び Sway for Windows 10 の一般提供開始

5 Aug 2015 8:00 PM

本日より、[Sway](#) の一般提供を開始します。Office 365 の先行リリースプログラムにご参加されているお客様だけでなく、Office 365 をご利用頂いている世界中の企業および教育機関のほぼすべてのお客様*がご利用いただけるようになります。

一般ユーザの皆様も無料の Microsoft アカウントで Sway をご利用いただけます。

また、Windows 10 に最適化された Sway for Windows 10 を新たに本日より提供開始します。[Windows ストア](#)からダウンロードしてご利用ください。

Sway の概要

- ・製品名称 : Sway
- ・配信開始日 : 8 月 6 日
- ・価格 : 無料

Sway は、ソーシャル時代に最適な新しいコンテンツ作成の在り方を追求して開発された Office ファミリーの新製品です。Sway のもつパワフルなデザイン機能により、表現力に富んだコンテンツを簡単に作成することができます。画像、テキスト、動画などを取り込むことも簡単におこなえ、アイデアにより説得力を持たせることができます。

作成した Sway は、スマートフォンやタブレットから、ノート PC、PC、大画面の Surface Hub まで、あらゆるデバイスに自動で最適化されて表示されます。

● 基本機能ご紹介ビデオ

■ ビジネスシーン

- ・ [プレゼンテーション作成](#)
- ・ [ニュースレター作成](#)

■ プライベートシーン

- ・ [旅の思い出アルバムづくり](#)
- ・ [料理レシピづくり](#)

● 利用アカウント

- 一般法人及び教育機関向け Office 365 アカウント
- Microsoft アカウント

*Sway for Windows 10 もこれらのアカウントでご利用頂けます。

● 推奨ブラウザ

Internet Explorer 10, Firefox 17, Chrome 23, Safari 6

*iOS : iOS 8.0 以降

Sway for Windows 10 の概要

Sway の充実した機能に加えて、Windows 10 搭載の PC、タブレットに最適化された新しい機能を利用できます。

特に、外出先でインターネットに接続できない場合でも Sway をオフラインで利用できるオフライン モード が実装されました。このオフライン モードは Sway のプレビュー期間中に [最も多く寄せられたご要望の 1 つ \(英語\)](#) であり、チーム一丸となって開発された新機能です。

これにより、外出先で利用する Windows タブレットでも、オフィスで使う PC やノート PC でも、Sway を作成、編集、共有できます。外出先で閃いたアイデアを形にする、プロジェクト

の現場をカメラで撮影し Sway に取り込むといったことや、会議や授業でプレゼンテーションを行う際に、場所によってインターネットに接続できない時でも読み込んだ Sway をオフラインで利用できます。

Sway for Windows 10 は、複数アカウントで同時にログインできるので、職場と家庭で同じデバイスを使用する場合などにも便利です。

10. Windows Hello (生体認証)

Windows へのログインは、従来は文字情報 (パスワード、PIN) を入力する方式であった。Win. 10 で新たに搭載された Windows Hello^{ハロー}は、生体認証情報 (顔、指紋、眼の虹彩等) を生体認証用のセンサーで読み取ることで Win. 10 へのログインができる機能である。この Win. Hello 機能を使うことで、パスワードを入力することなく高いレベルのセキュリティが確保される。

PC に搭載された指紋リーダー、顔認識カメラ、虹彩認識カメラを用いて、次の手順で生体認証情報を登録しておき、それを用いて簡単に Win. 10 にログインする。

- ① [スタート] → [よく使うアプリ] → [設定] とクリックして [設定] 画面を表示する
- ② [アカウント] をクリックして [アカウント] 画面に移行する
- ③ [サインインオプション] をクリックすると、
生体認証センサー (指紋センサー、顔対応/虹彩対応カメラ) がある場合は、[Windows Hello] の項目が表示される
{Windows Hello} の項目が表示されない場合は、Windows Hello 機能は使用できない。
- ④ 必要に応じて PIN (数字 4 桁の Personal Identification Number^{パーソナル アイデンティフィケーション ナンバー}) コードを登録した後、
表示されている生体識別センサーの [セットアップ] をクリックして [Windows Hello セットアップ] 画面を表示する。
- ⑤ [開始する] をクリックして設定を始める
- ⑥ [Windows Hello セットアップ] 画面の指示に従ってセットアップ操作を行い、
「…完了しました」が表示された後、[閉じる] をクリックして登録を終わる

生体認証情報の登録が完了した PC では、Windows のログイン時に、指紋センサーで指紋を読み取るだけ、あるいは顔識別カメラを見つめるだけで簡単で安全にログインできる。

11. Xbox (ゲーム) への対応

MS 社の「XBOX」サイトでは Win. 10 と XBOX の関係について次のように記載しているが、ゲームに関する知識が無い小生には意味不明である。

URL : <http://www.xbox.com/ja-JP/windows-10/xbox-app>

Windows 10 に標準搭載された Xbox アプリを使えば、フレンド、ゲーム、そしてゲームの進行状況を Xbox One と Windows 10 搭載 PC 双方から閲覧することができます。Xbox Live コミュニティのフレンドといつでもつながることができ、フレンドがプレイしているゲームを見たり、ゲームのクリップやスクリーンショットを共有したり、実績などをさまざまなデバイスから確認できます。パーティーチャットを始めるのも、Fable Legends や Gigantic などのマルチプレイ ゲームをプレイするのも思いのまま。Xbox One コントローラーを Windows 10 搭載 PC に接続して、お気に入りのゲームを Xbox One から自宅の Windows 10 にストリーミングしてプレイできます。

12. Windows Holographic と Microsoft HoloLens

【Windows Holographic (ホログラフィック)】

Win. 10 は新たに Windows Holographic^{ホログラフィック} (以下、Win. ホログラフィック) と呼ぶ API^{エーピーアイ} (※1) を組み込んでいる。

この Win. ホログラフィックは、ホログラフィック (3D 映像) を作成したり 3D ディスプレイに表示させたりする API 群である。

※1) API (Application Program Interface) ^{アプリケーション プログラム インターフェース}とは Windows OS 等が持つ機能やデータを、外部のアプリが利用するための手順やデータ形式等の決まりを言う

【Microsoft HoloLens (ホロレンズ)】

Microsoft HoloLens ^{ホロレンズ} (以下、MS ホロレンズ) は、MS 社が販売を計画している Win. ホログラフィックに対応した HMD ^(※2) である。MS ホロレンズは内部に CPU、GPU などを組み込み Win. 10 を搭載している。

MS ホロレンズは現実空間に別の映像を重ねる AR ^(※3) 機能により、現実空間にホログラム ^(※4) を重ねて表示する。また MS ホロレンズは Windows アプリを使用して、現実空間に重ねて表示したホログラムをして、音声入力や指先のジェスチャーやで操作 (拡大、縮小、変形、回転等) したり、ゲームを楽しんだりできる。

なお現時点 (2015/09/26) では発売時期や価格は未公表である。

※2) HMD (Head Mounted Display) ^{ヘッド マウント ディスプレイ}とは、頭部に装着して使用するディスプレイを言う。一般的にはディスプレイの他に、イヤホンやマイクも付属しているものが多い



※3) AR (Augmented Reality) ^{オーグメンテッド リアリティ}は、「拡張現実」と言われている。AR は人を取りまく現実空間に別の情報を付加・削除・増強・減衰することにより、人から見た現実空間を拡張するものを言う。

なお類似語の VR (Virtual Reality) ^{ヴァーチャル リアリティ}、仮想現実) は人工的に構築された現実感と現実を差し替えることを言う

※4) Hologram ^{ホログラム}とは、物理的な物質で作られた物体ではなく光によって作られた三次元 (3D) の映像である。ホログラムは物理的な物体と同様に異なる角度や距離から見るができるが、光学的に作られた 3D 映像のため触れたり押ししたりしたとした時の物理的な提供間が無い。

2015.10.25 と 11.22 の2回にわたり

お疲れさまでした！